

「わかった!」「できた!」「楽しい!」の声を聞くために!!



鳥栖市立小・中学校における  
校内・教室内の環境づくり事例集

令和8年3月（改訂）  
鳥栖市教育委員会

## 「基礎的環境整備」とは

「基礎的環境整備」とは「合理的配慮」の基礎となる教育環境の整備のことを指し、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、障害のある子どもだけではなく、多くの子どもにとっても有益なものです。

「基礎的環境整備」は、全部で8項目があり、国、都道府県、市町村が財源を確保し役割分担をして実施しています。

その際、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課さないよう留意する必要があります。

### 鳥栖市の基礎的環境整備の例

基礎的環境整備8項目	鳥栖市の具体例
ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校との連携</li> <li>・通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった多様な学びの場の提供</li> </ul>
専門性のある指導体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会、就学指導委員会の設置</li> <li>・特別支援教育アドバイザーの配置</li> <li>・特別支援教育コーディネーターの配置</li> <li>・外部の専門家を活用した指導体制の構築</li> </ul>
個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な教育的ニーズに応えるための支援の充実</li> </ul>
教材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の配備（更新計画）</li> <li>・1人1台のICT端末の配備</li> </ul>
施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設のバリアフリー化を考慮した大規模改修工事</li> <li>・エレベータの設置</li> </ul>
専門性のある教員、支援員等の人的配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育支援員の配置</li> </ul>
個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔軟な教育課程の編成等</li> </ul>
交流及び共同学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地交流学習</li> <li>・中学校区なかよし交流会</li> </ul>

## 「合理的配慮」とは

障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。（障害者の権利に関する条約「第二条 定義」より）

また、文部科学省が示す、合理的配慮 3 観点、11 項目を念頭に置き、検討していく必要がある。

### 鳥栖市の合理的配慮の例

分類	合理的配慮の具体例
共通	バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点を踏まえた障害の状態に応じた適切な施設整備 障害の状態に応じた身体活動スペースや遊具・運動器具等の確保 障害の状態に応じた専門性を有する教員等の配置 移動や日常生活の介助及び学習面を支援する人材の配置 点字、手話、デジタル教材等のコミュニケーション手段を確保 一人一台のICT端末の配置（タブレット型PC） 一人一人の状態に応じた教材等の確保（デジタル教材、ICT 機器等の利用） 障害の状態に応じた教科における配慮（例えば、視覚障害の図工・美術、聴覚障害の音楽、肢体不自由の体育等）
視覚障害	教室での座席配置、電子黒板の利用、十分な光源の確保 障害物を取り除いた安全な環境の整備（例えば、廊下に物を置かないなど） 教科書、教材、図書等の拡大版の確保
聴覚障害	教室における座席の配置や教師の話す位置の配慮 教室内の騒音の軽減対応
知的障害	生活能力や職業能力を育むための生活訓練室や日常生活用具、作業室等の確保 漢字の読みなどに対する補完的な対応
肢体不自由	医療的ケアが必要な児童生徒がいる場合の部屋や設備の確保 医療的支援体制（医療機関との連携、指導医、看護師の配置等）の整備 車いす・ストレッチャー等を使用できる施設設備の確保
病弱・身体虚弱	個別学習や情緒安定のための小部屋等の確保 車いす・ストレッチャー等を使用できる施設設備の確保 入院、定期受診等により授業に参加できなかった期間の学習内容の補完 学校で医療的ケアを必要とする子どものための看護師の配置
言語障害	スピーチについての配慮（構音障害等により発音が不明瞭な場合）
情緒障害	個別学習スペースや情緒安定のための小部屋等の確保 対人関係の状態に対する配慮（選択性かん黙や自信喪失などにより人前では話せない場合など）

LD、ADHD、自閉症等の発達障害	個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、小部屋等の確保 クールダウンするための小部屋等の確保 口頭による指導だけでなく、板書、メモ等による情報掲示
-------------------	---

- 授業やテスト、委員会活動、クラブ活動、行事、さらには給食や排泄、友だちとの関わりなど、学校生活ではさまざまな場面での困りごとが想定されます。その困りごとに対する合理的配慮の方法もいろいろな手段が考えられます。検討する際は、困り感の理解や受容を深めるためにも、関わる人々が本人を交えてしっかりと話し合い、認識を共にすることがとても重要です。

## あなたのまわりには、こんな困り感をもつ子どもがいませんか？

### 文章を書くのが困難

- ・ 視写ができない
- ・ 読みにくい字を書く
- ・ マス目からはみ出す
- ・ 拗音、撥音などを間違える
- ・ 間違えた字を書く

### 思いを伝えるのが困難

- ・ 筋道を立ててはなせない
- ・ 言葉がつまる
- ・ 要点が伝わらない
- ・ 適切な速さではなせない
- ・ 内容豊かに話せない

### 話を聞くことが困難

- ・ 聞き間違えることが多い
- ・ 聞きもらしてしまう
- ・ 聞いたことをすぐわすれる
- ・ 集団の中で聞き取れない
- ・ 指示の理解がむずかしい
- ・ 単語は理解できても、文章だと理解できない

### 文章を読むのが困難

- ・ 文中の語句を抜かしたり、行をとばしたりして読んでしまう
- ・ 文末を違う言葉に置き換えて読んでしまう
- ・ 文章の内容を正しく読み取ることが難しい

### 集中するのが困難

- ・ ケアレスミスしてしまう
- ・ 気が散る
- ・ 課題を順序立てて行うことが難しい
- ・ 必要なものを無くしてしまう
- ・ 指示に従えず、最後までやり遂げることができない

### 落ち着きへの困難

- ・ じっとしていない。手足をそわそわ、座っていてももじもじする
- ・ 授業中などでも離席をする
- ・ 静かにするべき時に、過度に走り回ったり、よじ登ったりする
- ・ 過度に話をする
- ・ 学習活動や遊びにおとなしく参加できない

■他にも、教師の質問の途中や、他の人への質問に対して出し抜けに答えたり、他の人を遮ったり、じゃましたり、順番を守らなかったりするなど、さまざまな子どもたちがいます。そうした子どもたちへの支援や配慮について、市が行っていることを次のページから示します。

# 鳥栖市が行っている 「参加の工夫（例）」

（写真による事例紹介）

- 刺激量の調整
- 時間の構造化
- ルールの明確化
- 場の構造化
- クラス内の理解促進

## 刺激量の調整（教室前方）

視覚刺激になる学級目標や掲示物を極力なくしてすっきりさせ、授業に集中しやすい教室環境を整備しています。



## 刺激量の調整（消音テニスボール）

聴覚刺激となる不快音を軽減させるために、テニスボールを椅子の足に装着し、授業に集中しやすい教室環境をつくっています。



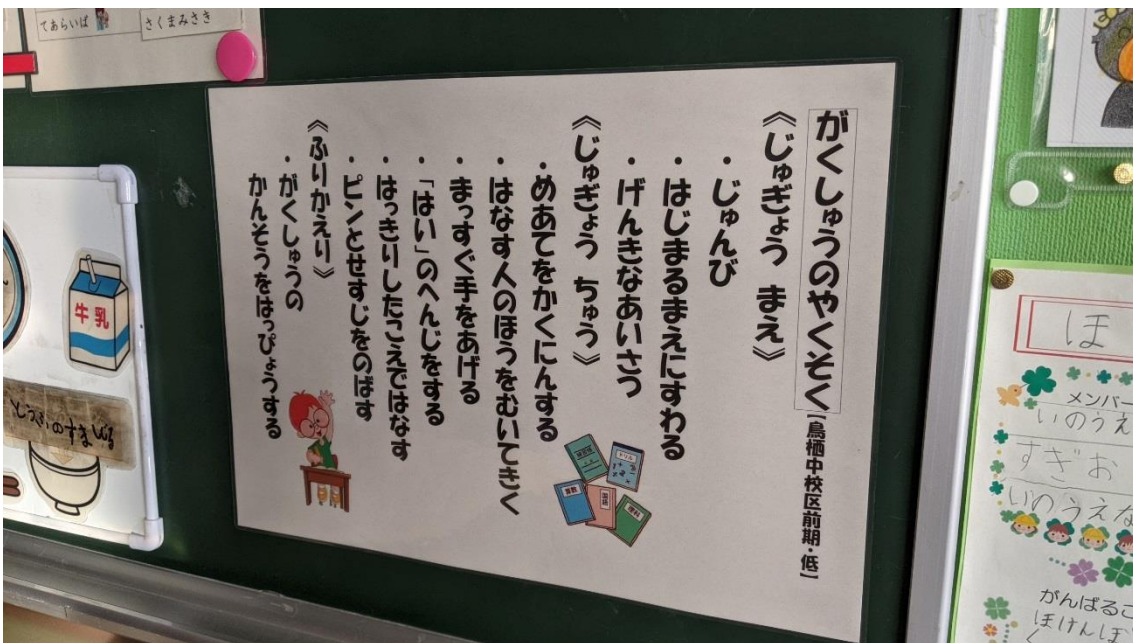
## 時間の構造化（短期・長期の見通し）

その月の行事、それぞれの時間割、直近の課題などが整然と掲示されたホワイトボード。自分が何をすべきかが分かり、主体的な行動を促します。



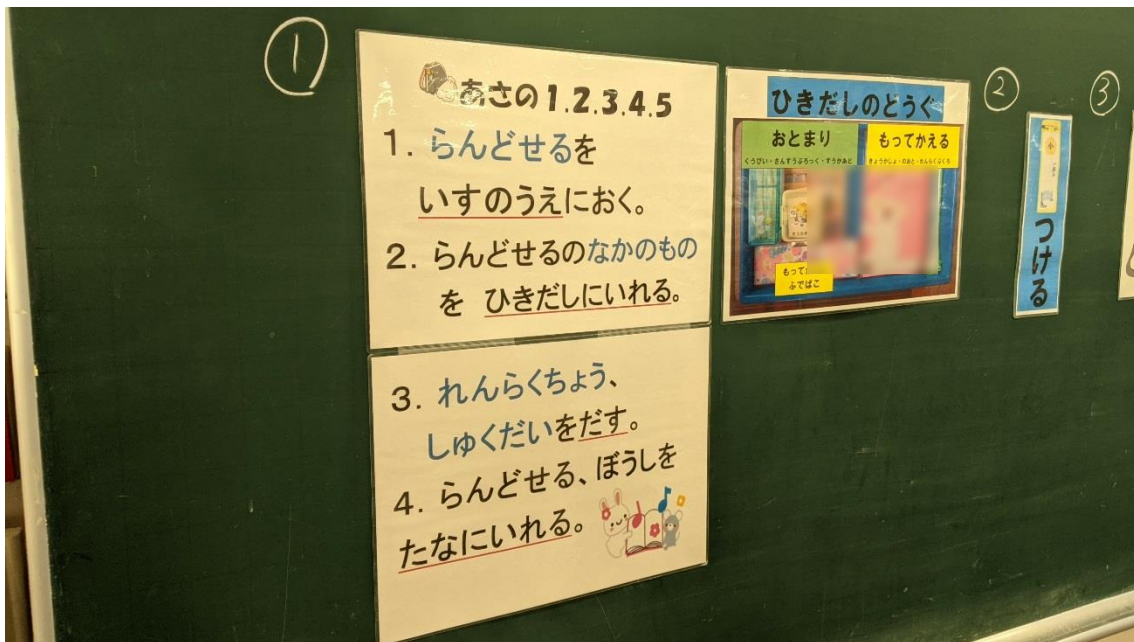
## ルールの明確化（学級の約束）

子どもがすぐに確認できる場所に、学校のめあてや学級のルールを明示し、学習規範を徹底しています。



## ルールの明確化（朝の準備の手順）

朝のルーティンを忘れる子もいます。登校してからまずやるべきことを明示し、スムーズに学校生活に移行します。



## 場の構造化（教室の棚の整備）

収納の仕方や場所が整備されると、すぐに使いたい物がとれ、ストレスがかかりません。見た目もすっきりします。





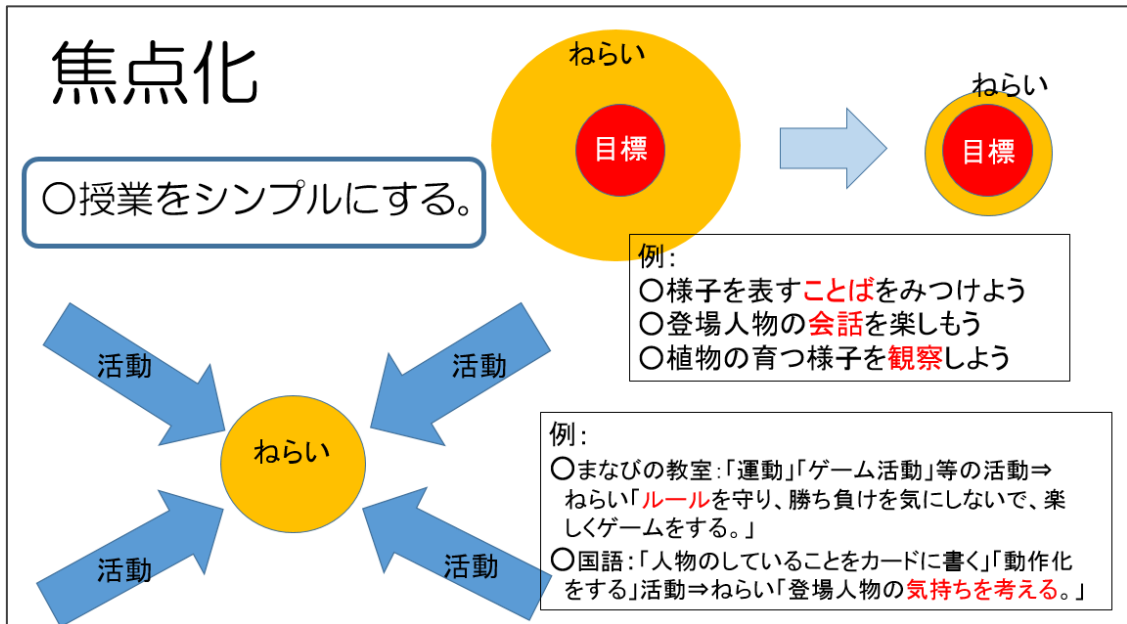
# 鳥栖市が行っている 「理解の工夫」

(写真等による事例紹介)

- 焦点化
- 視覚化

# 焦点化

「ねらい」や「活動」を絞り込んで目標を明確化し、授業をシンプルにすることで、理解促進をめざします。



**○聴覚的焦点化**

○指示の出し方＝一文一動詞

例①:  
「36ページを開きます」  
「問題3のところまで」

例②:  
「考えることは2つです」  
「1番目は…」  
「2番目は…」

問

**○視覚的焦点化**

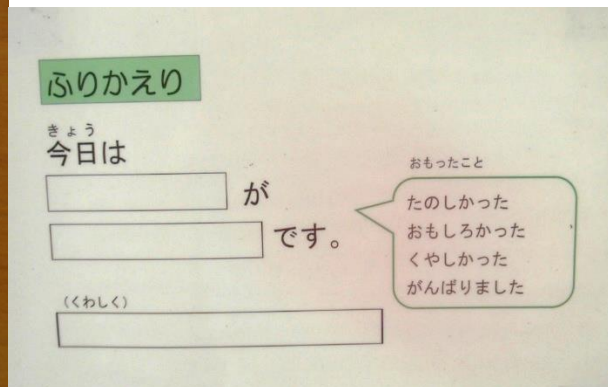
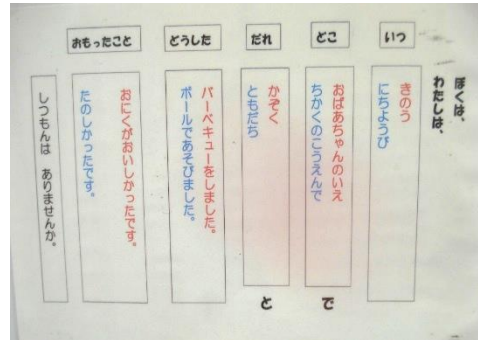
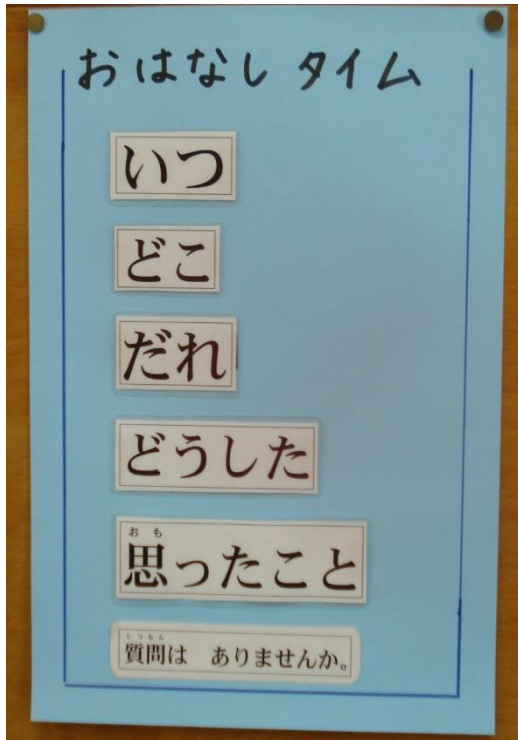
○教室前面・黒板はきれいに

○チョークの色  
○マグネットツール  
○見えやすい掲示

ポイント

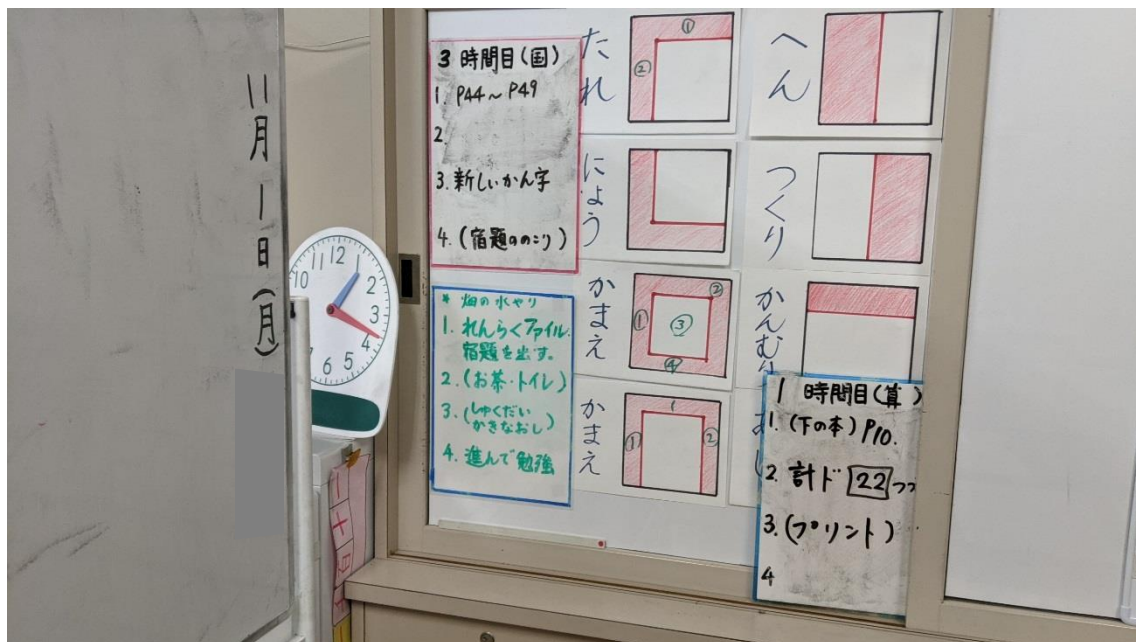
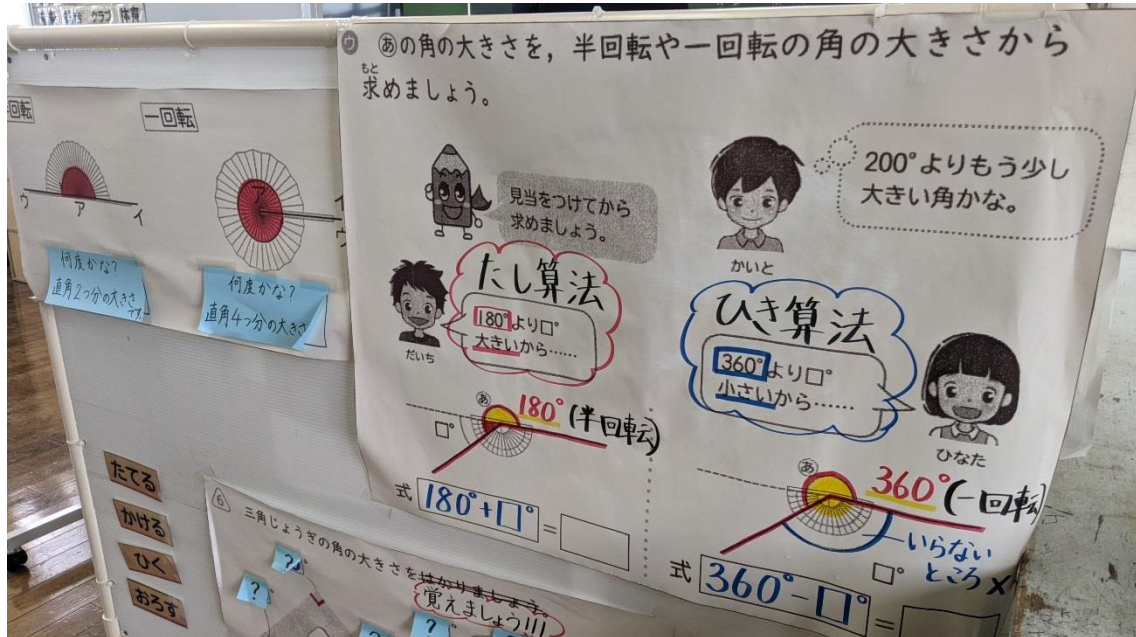
## 視覚化（授業中の掲示）

見えないものを「見える化」し、イメージしやすくすることで、児童生徒一人一人に主体的な学習を保障していきます。



## 視覚化（既習学習のふり返し）

長期記憶に課題がある子ども達も、既習事項を確認しながら安心して学習に参加することができる配慮です。



# 鳥栖市が行っている 「障害児支援の一例」

(写真等による事例紹介)

- 個別学習スペース
- 歩行補助手すり
- 階段昇降車
- エレベータ
- スロープ
- トイレの洋式化
- 医療的ケア

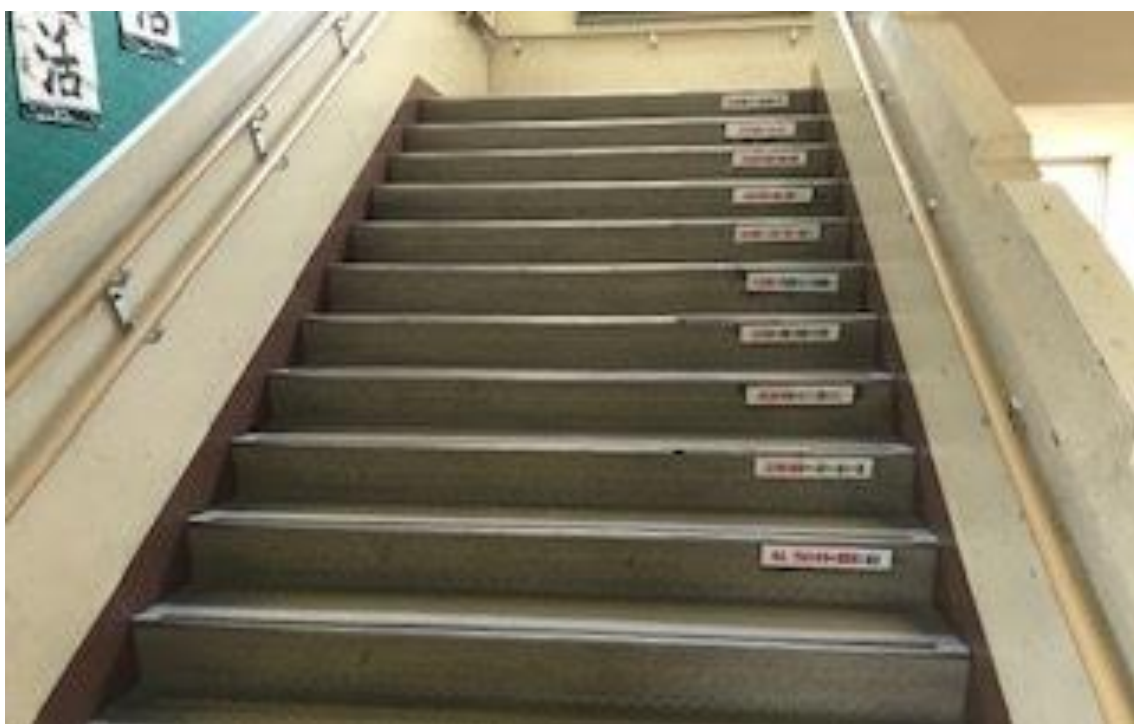
## 個別学習スペース

不必要な情報を遮断し、児童生徒が学習や活動に集中できるようにした空間です。



## 歩行補助手すり

階段に二段手すりを設置し、身長の違いや高齢者等の歩行の補助としています。



## 階段昇降車

スロープを展開して車いすの児童を昇降車に乗せ、ベルトで車いすを固定。階段の傾斜に応じて角度を変えることができるので、安心して昇降できます。



## エレベータ

障害者や高齢者等、移動が困難な方が円滑に階を移動できるよう、現在市内2校に設置しており、今後は学校の大規模改造時に設置を進める予定です。

## スロープ

障害者や高齢者等、移動が困難な方が円滑に移動できるようにスロープを設置しています。

## トイレの洋式化

男性トイレからは小便器をなくし、足腰に負担が少なく、様々な方が使いやすい洋式化を進めています。

## 医療的ケア

「医療的ケア」とは、学校で日常的に行う、たんの吸引や経管栄養などの衛生管理などの医療的生活援助行為のことです。

鳥栖市立小中学校に在籍する医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、学校内で児童生徒の障害に伴い日常的に生命の維持などのために必要な医療的な行為を看護師等が行う場合に、保護者と協議のうえ、医師の指示にもとづき実施することもあります。

# 資料編

- ユニバーサルデザイン（UD）
- インクルーシブ教育システムとは
- 鳥栖市障害のあるなしにかかわらず、全ての子どもが安心して共に学び、共に成長するための保育及び教育の環境整備を推進する条例
- 鳥栖市立小・中学校の実践事例

## ユニバーサルデザイン（UD）

「すべての人のためのデザイン」

年齢や障害の有る無しにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能であるようデザインすること。

### ユニバーサルデザイン教育とは

学習の優劣や発達障害の有無に関わらず、すべての児童生徒が「分かる・できる」喜びを実感できるために、配慮を要する児童生徒には「ないと困る支援」で、他の児童生徒にも「あると便利な支援」を、学級の実態、教科の特性、指導場面等に合わせて工夫し提供することを目指す教育です。

### ユニバーサルデザイン教育の「2つの視点」と「個に応じた配慮」

#### ○参加の工夫

教室には様々な学習道具や掲示物など、子どもにとって視覚刺激になる物があります。そのため環境刺激を軽減したり学習に関するルールを決めたりすることが大切です。それにより、落ち着いて集中して学習できたり安心して活動に参加したりすることができると思います。

#### ○理解の工夫

教師が学級の実態をもとに指導内容を焦点化して活動の見通しを持ちやすくする、授業形態や指導方法の工夫を取り入れる、子ども達が互いの考えを共有する活動を取り入れる、などが大切です。それにより、子ども達は活動に見通しをもち、主体的に活動に参加し理解を深めることができるようになりますと考えます。

#### 個に応じた配慮（合理的配慮\*）

「参加の工夫」「理解の工夫」だけでは、学習活動に参加したり理解したりすることが難しい子どもたちもいます。そのため、座席の配置や学習量の調節、ICT機器の利用など、個に応じた支援を取り入れる必要があります。特別支援学級や通級指導教室に通う子どもたちだけでなく、通常学級に在籍する発達障害をもつ子ども達に対しても考慮すべきことです。

合理的配慮はインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として必要な配慮です。

※「合理的配慮」とは、障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的字游を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。

## インクルーシブ教育システムとは

### インクルーシブ教育とは

インクルーシブ教育は2006年12月の国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」で示され、障害のある子どもと障害のない子どもが共に教育を受けることで、「共生社会」の実現に貢献しようという考え方です。

ここでいう「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会のことを指します。

### インクルーシブ教育システムとは

「インクルーシブ教育システム」とは、障害のある子どもとない子どもが共に学ぶことを目的に、「障害者が一般的な教育制度から排除されないこと」「自分が生活している地域で初等中等教育の機会が与えられること」「個人に必要な合理的配慮が提供されること」の3つが必要だとする考え方です。

文部科学省では、「インクルーシブ教育システム構築事業」を平成25年から特別支援教育の一環として推進し、主に以下4つの事業を行っています。

- ✚ 新たな就学先決定：就学先決定に必要な早期からの情報提供や相談会の実施。早期支援コーディネーターの配置。
- ✚ 障害のある児童生徒への専門的支援：小・中学校を支援する特別支援学校に「言語聴覚士」や「作業療法士」等を配置。
- ✚ 合理的配慮：「合理的配慮協力員」の配置。
- ✚ 医療的ケア：医療職の専門家の活用推進。学校に「看護師」を配置。

文部科学省はこれらのインクルーシブ教育システム構築事業の事例を毎年ホームページに掲載しており、事業推進に向けて新たな事業計画を作成しています。

本市では、「鳥栖市におけるインクルーシブ教育システム」のさらなる構築について調査研究に努めてまいります。

## 鳥栖市障害のあるなしにかかわらず、全ての子どもが安心して共に学び、共に成長するための保育及び教育の環境整備を推進する条例


### 令和元年 9 月 25 日制定しました

保育及び教育において、差別の解消や合理的配慮を提供するための基本理念並びに市及び市民の役割を明らかにすること等により、障害のあるなしにかかわらず、全ての子どもが安心して、共に学び、共に成長することができる鳥栖市の実現に寄与することを目的とする条例が制定。


### 詳細はこちら

<https://www.city.tosu.lg.jp/site/assembly/1628.html>


## 鳥栖市立小・中学校の実践事例


実践例 1	教室前面の環境整備	小学校
<p>【目的】 教室前面の環境整備をすることで学習に集中できるようにする。</p> <p>【解説】 教室前面にはできるだけ掲示物を掲示しないことで、集中して学習に取り組める環境づくりをする。また、前面にある電子黒板は必要ないときは画面を消すことで集中力を高める。</p>		
<p>【成果】 授業での集中力が高まる。また、電子黒板は時間経過で画面が消えたりするので、不要な時は事前に消しておくことで集中力が途切れることを防ぐことができる。</p>		


実践例 2	黒板に情報量の調整	小学校
<p>【目的】 黒板には授業に関係のない情報を書かないことで、余計な情報を遮断し、授業に集中できるようにする。</p> <p>【解説】 黒板には授業に関係のある情報のみを書くようにし、集中して学習に取り組む雰囲気を醸成した。また、黒板の情報量を整理することで、広く板書を使えるようにした。</p>		
<p>【成果】 授業に関係のある情報のみが児童の目に入るようにすることで、集中して学習に取り組めるようになる。</p>		

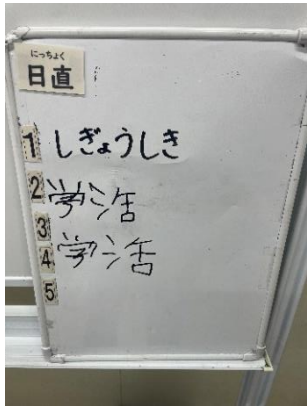
実践例 3	見通しをもった生活を送るために①	小学校
<p>【目的】 一日の生活の流れを提示することで、見通しをもった生活を送れるようにする。</p> <p>【解説】 教室に入ってすぐのところにスケジュールを提示し、いつ・どこで学習するかが分かるようにする。</p>		

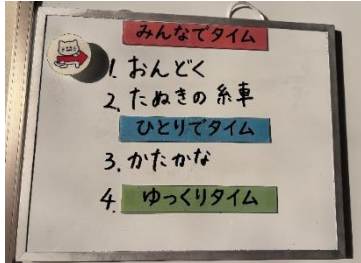
<p>【成果】</p> <p>スケジュールを見て、早めに移動しようなどと進んで行動する姿が見られるようになり、安心して学習に取り組めるようになる。</p>
---

実践例4	見通しをもった生活にするために②	小学校
<p>【目的】</p> <p>授業の流れを把握し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p>		<p>【解説】</p> <p>授業が始まった時に黒板に1時間の授業の流れを提示する。授業によっては、時間を示すこともある。</p>
<p>【成果】</p> <p>何をやるのか分からなくて不安に思っていた児童が、見通しをもって安心して学習に取り組めるようになる。教師も、活動や時間を意識した授業を組み立てるようになる。</p>		

実践例5	一週間の予定を知る。	小学校
<p>【目的】</p> <p>今日、明日の二日分の時間割と一週間の予定を知ることで見通しをもつことができる。</p>		<p>【解説】</p> <p>テストの予定や行事、図工や家庭科に必要な物、提出物の締め切りなど、その週に関係がある情報を掲示しておく。</p>
<p>【成果】</p> <p>授業に必要な物や、提出物の締め切りが近づくと、児童同士で声を掛け合ったりする姿がみられ、テストがある日にちがわかることで、いきなり実施という不安感が少なくなる。</p>		

実践例6	1日の流れがみて分かる	小学校
<p>【目的】 時間割をイラストを使いわかりやすく示すことで、安心して過ごすことができるようにする。</p> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割を細かくスケジュール化して掲示する。</li> <li>・活動する場所をクラスのマークなどで示し、わかりやすくする。</li> <li>・休み時間等にすると好ましいトイレなども掲示しておく</li> </ul>		
<p>【成果】 その日の調子に合わせて活動する場を選んだりする姿がみられるようになり、安心して過ごせるようになる。 着替えや休み時間のタイミングが分かり自分たちから「～だよ」 という声が聞かれるようになる。</p>		

実践例7	1日の流れの視覚的支援	小学校
<p>【目的】 見通しがもてないことで、活動の不安感につながる児童への視覚的支援を行う。</p> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の流れを掲示し、朝の会で説明を行う。その際、活動内容や、場所、持ち物を伝えている。</li> <li>・1日の流れを説明し終えた後には、質問タイムを行い、気になる点を聞く時間も設けている。</li> </ul>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への不安感から参加できない子どもが減る。</li> <li>・活動前に授業準備をする児童が増える。</li> </ul>		

実践例8	学習の流れ	小学校
<p>【目的】 1時間の学習の流れを書き、児童が見通しをもって、学習に取り組ませるようにする。</p> <p>【解説】 1時間の流れを授業開始後に示すことで、児童に見通しをもたせ、学習に臨ませるようにする。また、活動が終わると、矢印の磁石を動かし、今どの活動を行っているのかを分かるようにしている。</p>		

## 【成果】

授業に入る前に本時の流れを説明することで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようになってくる。また、終わると次の活動のところに磁石を動かすため、児童も終わった活動が分かるようになり、次の活動は何か自分で見て考え、次の活動にスムーズに移行することができるようになる。次に何をするのか尋ねてくる児童には、ボードを見せ、次の活動を指し示すと安心した様子が見られる。

## 実践例9

## 授業の流れが一目瞭然！

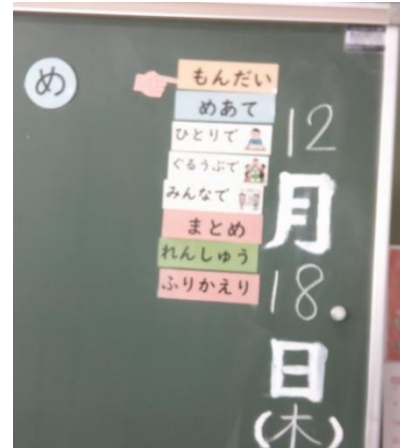
小学校

## 【目的】

45分間の授業の流れや内容の見通しがつき、安心して学習することができる。

## 【解説】

- ・「今日の1時間目は、この流れで学習します。」
- ・「まずは、今日取り組む問題を出します。」
- ・担任の先生が、児童に声をかけながら人差し指の形をした磁石を「もんだい」の横につけました。
- ・活動が進むごとに、人差し指の磁石は、今取り組んでいる活動の箇所へ動かされます。
- ・「見通しの立たない」、「『終わり』が見えない」活動に強く不安を感じる児童が通常学級の教室にもいます。
- ・そうした児童にとっても、強く不安を感じない児童にとっても、この取り組みは、安心して学習に取り組める方法であると思います。



## 【成果】

・授業の流れが確認できることや「おわり」がいつなのか、を把握できることで、児童は安心して見通しを持って一つ一つの活動に取り組むことができる。

## 実践例10

## 時間割

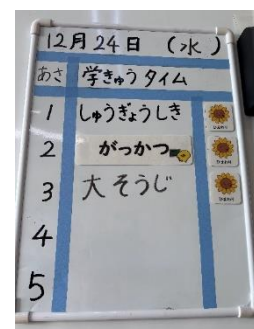
小学校

## 【目的】

今日の一日の流れや、学習を行う場所を示すことで、一日の見通しをもたせる。

## 【解説】

交流学級での授業に緊張したり、不安を抱えたりする児童が多いため、事前にどの授業が交流学級なのか支援学級なのかを示している。



## 【成果】

学習を行う場所を示していなかったときは、どの授業が交流学級で行うのか頻りに尋ねてくる児童がいたが、時間割に学習する場所をつけることで、児童も見通しをもつことができ、安心して交流学級に移動することができるようになってくる。

## 実践例 1 1

## タブレットのつかいかた

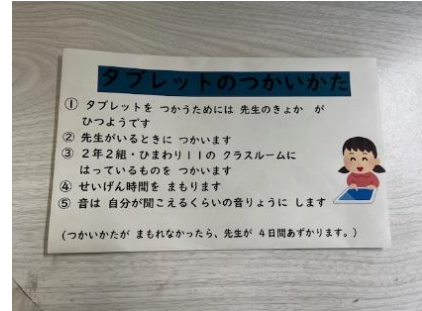
小学校

## 【目的】

きまりを守って、次の活動に切り替えることができるようになる。

## 【解説】

タブレットの上部に貼っている。タブレットを使う際には、一読したあとに使う。使う時間を事前に決めたくて、タイマーではかる。



## 【成果】

きまりを明確にしたことで、安心して使うことができるようになる。また、タイマーで時間をはかることで、見通しを持つことができ、徐々に次の活動に切り替えることができるようになってくる。

## 実践例 1 2

## 振り返りのレベル5段階の掲示による思考の深まり

小学校

## 【目的】

毎時間の学習後に、自分の学びを言葉にして整理できるようにするため。また、振り返りの質を高め、学習への主体的な関わりを促すため。

## 【解説】

授業の最後に毎回行う「振り返り」において、思考の深まりを可視化するために、レベル1～5の段階を明示した掲示物を常時掲示。

それぞれのレベルに「気持ち (Lv.1)」「めあて (Lv.2)」「力 (Lv.3)」「成長 (Lv.4)」「分析 (Lv.5)」と段階的なラベルを付け、子どもたちが自分の振り返りの深さを意識しながら言葉を選べるようにした。

掲示は常に教室内の見やすい場所に貼り、いつでも確認できるように工夫。

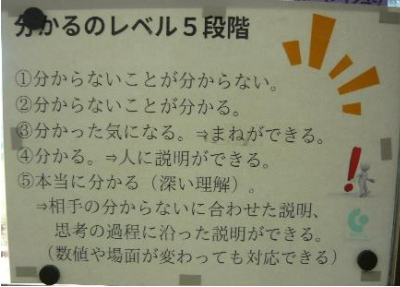
## 【成果】

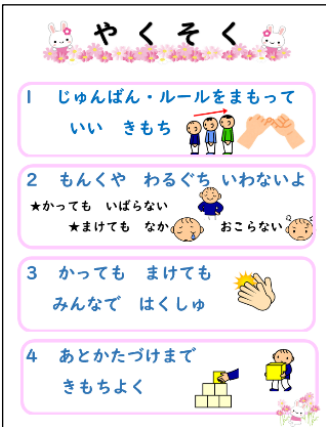
低学年時には「楽しかった」だけで終わっていた振り返りが、次第に「できるようになったこと」や「次に生かしたいこと」へと変化する。

掲示を見ながら書くことで、学習内容と自分の成長の関係を言語化する力が育ち、主体的な学びの姿勢につながってくる。


特に言語化が苦手な児童にとって、見通しが持てる有効な手がかりとなっている。




実践例 1 3	理解度を自覚させる「分かるのレベル5段階」表示	小学校
<p>【目的】 学習内容の理解度を児童自身が客観的にとらえ、自分に必要な学びを意識しながら取り組めるようにする。また、深い理解を目指す学習姿勢を育てる。</p> <p>【解説】 授業中、子どもたちが「自分は今日の段階にいるのか」を意識できるように、理解の深まりを5段階に分けた掲示物を設置。 「①分からないことが分からない」から「⑤本当に分かる（深い理解）」までの段階を明確に示し、それぞれの段階の特徴や到達点を具体的に記述。 「分かった気になる」「人に説明できる」など、誤解しやすい理解の段階も含めることで、子ども自身が振り返りながら学習を進めるための指標となるよう工夫した。 掲示は常時見える場所に設置し、授業の途中やまとめの場面で活用している。</p>		
<p>【成果】 「分かったつもりになっていた」「説明できるレベルまではまだ」といった、自分の理解の段階に対するメタ認知的な気づきが増える。 ペアでの説明活動や復習のときにも、このレベル表を見ながら「どこまで分かったか」を話す姿が見られ、学び合いの質が向上する。 特に、学習に自信のない子どもにとって、自分の成長を実感しやすい可視化ツールとして役立っている。</p>		


実践例 1 4	交流学級での「約束カード」の活用	小学校
<p>【目的】 交流学級での勝敗や順位が関わるゲーム的な活動等を行う際に、「約束カード」を使うことで、児童に適切な言動を促し、友好的な関係を保てるようにする。</p> <p>【解説】 ・特別支援学級の自立活動で使う「約束カード」を、めあての時に提示し、児童に納得させた上で、意識付けを行う。 ・ゲーム的な活動の途中や振り返りの時に、「約束カード」をもとに自他の言葉や行動を評価することで、客観的にルールや順番を守ることの大切さを価値付ける。 ・長期休業明けに「夏・冬休み双六」でのスピーチ活動、生活科の「かるた遊び」等で使用する。</p>		
<p>【成果】 交流学級の配慮を要する児童にとっても、合同・交流学習している特別支援学級の児童にとっても、よい手立てとなり、回を繰り返す毎に、みんなで楽しく仲よく過ごすことの</p>		


よさが分かってくる。「約束カード」の中の言葉を友達に言い聞かせたり自分で何度もつぶやいて心を落ち着けようとしたりする姿が見られるようになる。


実践例 1 5	がんばりシール <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
<p>【目的】 生活の中で目的を持たせ、それを意識させる。</p> <p>【解説】 目標を達成できたらシールを貼ることで達成感や自己肯定感を持たせ、意欲的に過ごすことができるようにする。</p>	
<p>【成果】 自立活動の中で自己を振り返り、目標を立てさせることができる。また、日常の中でそれぞれの目標を意識させることで、個に応じた指導につなげることができる。</p>	

実践例 1 6	水筒置き場をわかりやすく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
	<p>【目的】 水筒を置く場所が本人だけでなく誰でもわかりやすい。</p> <p>【解説】 ロッカーの上の水筒を置くかごに、番号と名前が示してある。</p>
<p>【成果】 本人だけでなく誰もが間違えずに水筒を見つけることができる。</p>	

実践例 1 7	配布棚のラベリング <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
	<p>【目的】 各学級への配布用の棚の取り間違えないようにかごと棚の枠にラベリングしている。</p> <p>【解説】 棚の枠には学級名のラベリングだけでなく「→」を入れたり、かご自体にも学級名のラベリングをしたりしている。</p>
<p>【成果】 棚の枠に学級名のみのラベリングをしていると、取り間違いがあっていたが、取り間違いが起きることがほとんどなくなってくる。</p>	

実践例18	提出場所を示して、スムーズに朝の準備をする。	小学校
<p>【目的】 児童が、決められた時間内に一人で朝の準備を終わらせることができるようになる。</p> <p>【解説】 提出場所が一目で分かるように示したり、個人のかごを準備したりすることで、どこに、何を提出するのか、どこに連絡袋を出すのかが分かるようにする。</p>		
<p>【成果】 朝の短い時間内に、スムーズに宿題を出したり、連絡帳を書いたりすることができるようになる。</p>		

実践例19	持ち物棚の共通化	小学校
<p>【目的】 個人の持ち物を収納する棚の配置を共通化することで、学年が変わっても同じように管理できるようにする。</p> <p>【解説】 課題プリント、文房具、折り紙などの棚の位置を決めることで長期間にわたって整頓のスキルを身につける。</p>		
<p>【成果】 入れる場所が決まっているので、学年が変わっても児童が迷うことなく持ち物の管理ができ、教員も指導しやすくなる。</p>		

実践例20	号車別の集配物の場	小学校
<p>【目的】 提出物の場所を決めることで収集や配布が簡単にできるようにする。</p> <p>【解説】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①黒板前の机の上に号車別に入れ物（かご・引き出し等）を用意。</li> <li>②児童に各号車ごとに提出物を入れるようにする。</li> <li>③教員が点検・処理する。</li> <li>④必要に応じて、①の中に③を入れ、児童に配布するよう促す。</li> </ol>		

## 【成果】

- ・児童…提出場所が分かりやすい。配布の際に号車だけで済むのでスムーズにできる。
- ・教員…提出者の把握や点検が簡単に短時間でできる。
- ・児童が書き直しをする等の対応が素早くできる。

## 実践例 2 1

## 片付け方の写真と場の設定

## 小学校

## 【目的】

片付け方を写真で提示して、分かりやすくする。

## 【解説】

- ・水筒などの片付け方を学活で指導後、写真を掲示。
- ・グループ毎にかごを用意し、横に片付け方の写真を貼る。
- ・写真を見て水筒のひもを水筒に巻いて入れるようにする。

\*ボックス（手前・上から）、お道具バック等も同様に。



## 【成果】

- ・写真があることで、一目瞭然。言葉での説明がなくても分かりやすい。
- ・日常生活の中で、児童が継続的に確認したり照合して正しく整頓したりすることができる。

## 実践例 2 2

## グループごとの提出処理の効率化

## 小学校

## 【目的】

- ・連絡帳やノートの提出物の収集・確認・配布を短時間で済ませる。


## 【解説】

- ・ノートの表紙の上部にビニルテープをはり、出席番号を書く。
- ・出席番号順にグループを作りビニルテープの色分けをしておく。  
例:グループ 1{出席番号 1 番～5 番} …赤色、  
グループ 2{出席番号 6 番～10 番} …黄色
- ・提出する場（ファイルボックス・かご等）を色別にしておくと、更に提出・配布がしやすい。





## 【成果】


- ・教員にとっては、番号順に揃えなくても、色別の数を確認することで、提出者の確認・把握が素早くできる。
- ・児童にとっては、提出・整理する場所が明確。児童が配布する際も色別に分かれていますので、短時間で終わる。


実践例23	ろう下の足あと	小学校
<p>【目的】 ろう下の右側通行の意識を高める。</p> <p>【解説】 ろう下に足あとの紙を貼ることで、右側通行に気を付けさせる。</p>		
<p>【成果】 6年生が作成した足あとを全校に貼ることで、意識付けを行うことができる。また、6年生は自分たちが作成した足あとが使われたことで、下学年へ右側歩行を促す声かけが見られるようになる。</p>		



実践例24	特別支援学級の構造化	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地のいい空間を作る。</li> <li>・児童各自が相手の特性や個性を受け入れることができる環境にする。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と遊び、休憩等の場所を分け、教室を構造化する。一人になることができる時間と場所を設定する。</li> <li>・自己紹介とともに、他己紹介も同様に行うとともに、自分の紹介カードを作成し、周囲への理解を促す。また、それは教師も同様に作成し、人間の違いは当然ある物という認識をもたせる。</li> </ul>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の中で、自分の居場所が確立されたため、帰属意識が芽生え、突発的な不適応行動が減少した。また、突発的に飛び出してしまった際にも、すぐに自分で教室に戻り活動することができる。</li> <li>・相手を理解することで、学年や特性が違う児童同士が仲良く過ごすことができる。また、突然の行動に対しても、理解をしていることで過敏に反応することなく穏やかに対応することができる。</li> </ul>		




実践例25	ふわふわ貯金 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
	<p>【目的】 友達のいいところを見つけあい、渡して後ろに掲示して可視化する。</p> <p>【解説】 友達のいいところを定期的に見つけてハートのカードに書き、継続して重ねていくことで自己肯定感を高め、クラス全体の雰囲気もよくしていく。</p>
<p>【成果】 形に残していくことで児童が喜んでみている様子が見られ、自信にもつながる。</p>	




実践例26	きらりさんポスト・カード（下学年） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他のよさや成長、努力を認め合い高め合う風土づくり、学級経営の一つとして、日常生活の中に位置付ける。</li> <li>・道徳の内容項目「個性の伸長」、「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」と関連付ける。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各自で、「きらりさんカード」に友だちの「きらり」と輝いている言葉や行動を記入する。</li> <li>② 「きらりさんカード」を「きらりさんポスト」に入れる。</li> <li>③ ポストに入った「きらりさんカード」を朝や帰りの会で紹介したり、連絡帳や学級通信などで称賛したりして啓発する。</li> <li>④ カードをもらった児童だけでなく、カードを書いた児童を認めることで価値付ける。</li> </ol>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きらり」と輝く姿に着目したり、個性やよさを認め合ったりする。また、善行・成長・努力等観点の広がりが見らる。</li> <li>・日々の学校生活の中で児童が自主的に書くだけでなく、教員が意図と目的を持って書く場を設けることでマンネリにならず、個々のよさに目を向けることができる。</li> </ul> <p>(例) 席替えの際に隣やグループの友だちに「きらりさんカード」を書く。</p>	


実践例27	板書の工夫	小学校
<p>【目的】 児童が教科書やドリルを開くページが分かるようにする。</p> <p>【解説】 本の中にページ数を書くことで、どのページを開くのか分かるようにする。</p>		
<p>【成果】 どのページを開くのか分からなくなった児童でも、黒板を見て教科書を開くことができる。どの教科でも使用することができる。</p>		


実践例28	一目で分かる片付け	小学校
		<p>【目的】 トイレを使用する時に、上靴やスリッパを児童が自ら揃えることができるようにするため</p> <p>【解説】 スリッパや上靴を並べる場所に、足跡の形の紙を並べた。その上に履き物を並べるようにする。</p>
<p>【成果】 どこに履き物を置くのか一目で分かり、児童が自ら履き物を並べることができるようになる。</p>		

実践例29	トイレのスリッパ並べ(低学年)	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トイレを使用する際、スリッパを揃えて並べるようにする。</li> <li>• 低学年児童が自ら進んで整頓できるようにする。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スリッパを並べる場所に、子どもたちの好きなキャラクターやうさぎ等のイラストを並べて貼る。その上、耳の所にスリッパを並べるようにする。</li> <li>• 「がんばり表」を入りに貼る。きれいに並んでいたら、花丸をかいて称賛し、励みとする。</li> </ul>		 
<p>【成果】 耳の所にスリッパをきれいに並べると顔が見えることから、並んでいるか否かが分かりやすい。そのため、自分で整頓したり友だちに声を掛けたりする姿が期待できる。</p>		

実践例30	トイレの使い方や掃除の仕方がみてわかる	小学校
<p>【目的】</p> <p>トイレの使い方が雑になっていて汚れていることも多いので、視覚的に知らせることできれいに使うことを意識付けする。</p> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スリッパの並べ方が分かるように置く位置に型をかく。</li> <li>どこで上靴を脱ぐのか分かるように養生テープで脱ぐ場所をわかりやすく示す。</li> <li>トイレの使い方のポスターを掲示して座ってすることを意識できるようにする。(男女とも)</li> <li>そうじをするときに困らないように手順をはっておく。</li> <li>掃除担当がトイレの使い方チェックを行いきれいに使えているか、汚れているかをイラストで知らせる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トイレの使い方が上手になってきてニコニコイラストが掲示されることが多くなっていく。</li> <li>トイレの汚れが少なくなったことで、掃除の負担が軽くなっていく。</li> </ul>		

実践例31	写真付き給食当番表(低学年)	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食当番の仕事の分担を明確に示す。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食の食管や道具等の写真を配膳台には <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〇〇さん</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〇〇さん</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〇〇さん</span> する。</li> <li>給食当番表にも写真を載せ、個人の仕事が分かりやすいようにする。</li> </ul>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真があることで、食管や道具の名前が分からなくても把握できる。</li> <li>1人一人の名前が貼ってあることで、誰が何の仕事をするのか分かりやすく、スムーズに当番の仕事ができる。</li> </ul>		

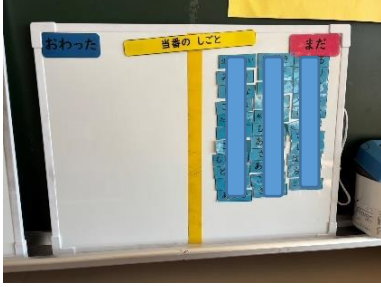
実践例32	飲み残した牛乳の流し方 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
	<p>【目的】 児童自身で正しく牛乳の飲み残しを処分できるようにするため。</p> <p>【解説】 4月当初や給食時間に児童へ処分の方法を指導していても、忘れてしまったり上手に処分することができなかつたりする児童がいた。手洗い場に掲示することで、手順を確認しながら流すことができた。</p>
<p>【成果】 牛乳が流しに残ったままになっていることがあるが、頻度が減ってくる。</p>	

実践例33	仕事内容が一目瞭然！ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
<p>【目的】 4時間目の授業終了の挨拶が済むと同時に、素早く給食の準備に取りかけられるようにする。</p> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8つの仕事内容が文字や図で分かりやすく表されています。</li> <li>メンバーの名札が上段と下段に分かれて貼られているのは、下の①、②の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 上段下段のメンバーは、給食室から食器類を一緒に運び、給食台へのセッティングをする。</li> <li>② セッティングが終わったら、下段のメンバーは、席に戻って待つ。</li> </ul> </li> <li>上段のメンバーが、おかず等のつぎ分けをする。</li> </ul> <p>ほかにも、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上段と下段のメンバーの見分けがしやすいように、名札の色分けがされています。</li> <li>名札の裏には、マジックシートが貼られていますので、名札を動かすこともスムーズにできます。</li> <li>名札を動かす方向も「←」で示されています。</li> </ul>	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童は、4時間目の授業が終わると、素早く準備に取りかかり、表を見ながら仕事の確認・服装チェックを終えて、給食室へ向かうことができるようになる。</li> <li>教室へ運んできた後、かごから食器を出し、おぼん・箸などのセッティングを済ませたら、下段のメンバーは、すばやく席に戻ることができるようになる。</li> </ul>	


<p>実践例34</p>	<p>掃除のスケジュール <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span></p>
<p><b>【目的】</b> 掃除の手順が分かり、何をすればいいのかが分かることで安心して活動できるようにする。</p> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 簡単なそうじの手順をスケジュール化し、終わったらはぎとれるようにしておく。</li> <li>• 全部活動が終わったら、自分の好きなキャラクターが出てくるようになっており、できたという達成感を感じることができるようになっている。</li> </ul>	
<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 苦手の掃除も手順があることで、終わりがわかり、取り組むことができるようになる。</li> <li>• 全部終わると好きなキャラクターが出てくるので、最後まで取り組むことができるようになる。</li> </ul>	



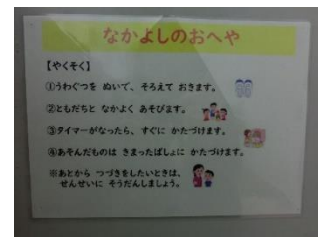
<p>実践例35</p>	<p>当番活動をわかりやすく <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span></p>
	<p><b>【目的】</b> 児童全員が当番活動を責任もって行うため。</p> <p><b>【解説】</b> 自分の当番活動が終わったら花丸カードを動かして、視覚的に把握ができるようにする。</p>
<p><b>【成果】</b> 忘れずに当番活動を行うことができる。</p>	

実践例36	当番活動の可視化	小学校
<p>【目的】 本日の当番活動をできている人とまだ終わっていない人がはっきり分かるようにしている。</p> <p>【解説】 毎日呼びかけることで当番活動を意識的にする事ができた。</p>		
<p>【成果】 視覚的に示しておくので、自分がする役割を忘れずに意識する事ができる。</p>		

実践例37	当番表の視覚化	小学校
<p>【目的】 当番の役割を児童のネームプレートを使用し、視覚化することで、自分の担当の当番を常に確認できるようにする。</p> <p>【解説】 給食当番や掃除当番を、ネームプレートを使用し、視覚化した。週が変わればネームプレートを移動させ、常に自分の役割がわかるようにした。</p>		
<p>【成果】 給食当番や掃除当番を視覚化することによって、児童が自分から役割を確認する習慣が確立される。また、児童同士で声を掛け合う姿も見られるようになる。</p>		

実践例38	落ち着いた健康診断を受けることができるために	小学校
<p>【目的】 健康診断を受ける児童が安心して臨むことができるようにするため。</p> <p>【解説】 健康診断の手順と内容を養護教諭がイラスト入りで作成し、学校全体で共有した。健康診断前には各クラスで事前指導を行った。</p>		<div data-bbox="874 1384 1326 1447" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>しりよくけんさ <b>視力検査はなんのためにするの？</b></p> </div> <div data-bbox="1050 1451 1145 1574" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="895 1579 1305 1664" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>べんきょう      こくばん      し      み *勉強のときに、きちんと黒板の字が見えるか を調べるため</p> </div>
<p>【成果】 使用する道具やどんなことを検査するのか事前に学習をすることで、落ち着いた検診を受けることができる。</p>		

実践例39	遊びのスペースの視覚的支援（知的1・3年生）	小学校
<p><b>【目的】</b></p> <p>遊びのスペース「なかよしのおへや」において、上靴の扱い方や玩具の置き場、約束を視覚的に示し、見通しをもって安心して遊びや片付けに取り組めるようにする。</p> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上靴を脱ぐ場所や揃え方をイラストで示し、「なかよしのおへや」で遊ぶ前に教師へ声を掛ける言葉を、児童の目につきやすい位置に掲示している。</li> <li>玩具の置き場を写真で示し、どこに何を戻すのかが一目で分かるようにしている。視覚的な手掛かりを用いることで、片付けの流れを理解しやすくし、教師の声かけに頼らず行動できるよう配慮している。</li> <li>「なかよしのおへや」での約束を掲示し、守るべきルールを文字で明確に示している。掲示することで、児童が必要に応じて自分で確認しながら行動できるようにしている。</li> </ul>		
<p><b>【成果】</b></p> <p>上靴の扱い方や玩具の置き場、約束を視覚的に示すことで、「なかよしのおへや」での過ごし方に見通しをもって行動できる児童が増える。また、遊びに入る前の声掛けや片付けの場面において、教師の声掛けを待たずに自分で確認し、落ち着いて行動しようとする姿が見られるようになる。さらに、ルールが明確になったことで、安心して遊びに参加し、活動の切り替えもスムーズになる。</p>		



実践例 4 0	朝の会の会順を電子黒板で提示	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会の会順を視覚化することによって、分かりやすくする。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板にパワーポイントで作った朝の会の会順を提示する。</li> <li>司会者とフロアーにいる児童が見ながら、会を進めたり参加したりすることができる。</li> </ul>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的に分かりやすく、見通しをもって、今、何をするのが明確なため、落ち着いて会に参加することができる。</li> <li>特に司会は、1年生一人ででもできるようになる。</li> <li>交流学級の朝の会で、1日のスケジュールの確認をする際に、「放課後デイサービスに行く人？」等と、児童が挙手して自らの下校の確認をするような手立てをとることは有効。(通常の学級在籍児童が放課後デイサービスを利用したり、特別支援学級在籍児童が下校したりすることは、分かり辛いですが、次第に自分の下校方法を把握できるようになる。)</li> </ul>		



実践例 4 1	今日の下校はどこに	小学校
	<p>【目的】</p> <p>本日の欠席者、下校の変更がある人、なかよし会(学童クラブ)に行かないひとを誰もが共通理解できる。</p> <p>【解説】</p> <p>児童だけでなく、自習監督などで入った職員も一目でわかる。</p>	
<p>【成果】</p> <p>視覚的に示しておくので忘れることもなく、本人も周りも間違えずに対応できる。</p>		

実践例 4 2	下校場所が分かるように見通しをもたせる	小学校
<p>【目的】</p> <p>下校、保護者お迎え、放課後デイの利用日が分からなくなり不安にならないようにするため、視覚的に分かるようにする。</p> <p>【解説】</p> <p>黒板前に、設置しておくことで、登校時に自分の名前札横に下校場所の札を貼り、下校場所を確認することができるようになっている。</p>		



## 【成果】

- ・間違っ、放課後デイ利用日に、下校してしまう児童がいなくなる。
- ・主体的に取り組めるため、子ども達だけで活動することができる。

## 実践例43

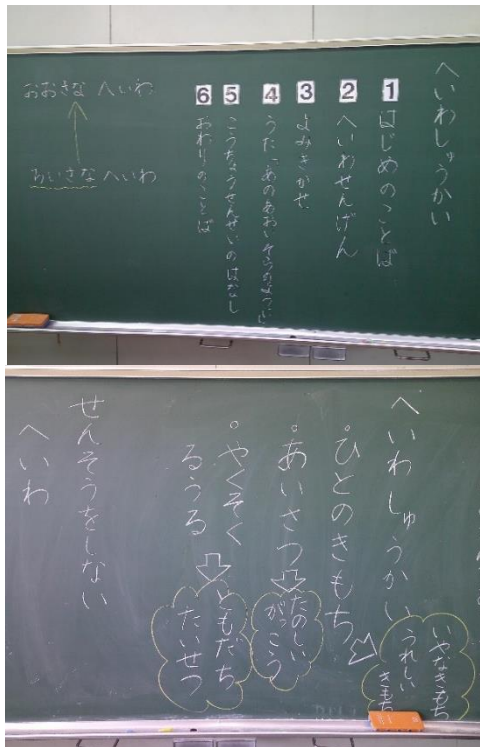
## 見通しのあるオンライン集会の参加（1年生）

小学校

## 【目的】

オンラインによる全校集会（全校朝会や平和集会、始業式等）を効果的に実施するために、プログラムや話の要点について視覚化して示す。

## 【解説】



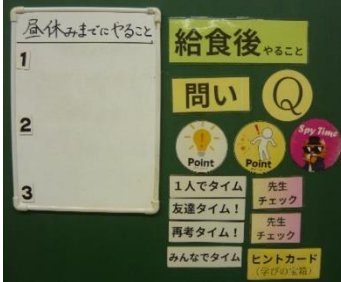
・プログラムを板書して示す。現在、どこまで進んでいるか、矢印や磁石を動かして示す。


・普段から使用している、授業の流れを示す数字カードを活用することで、より分かりやすい掲示になっている。

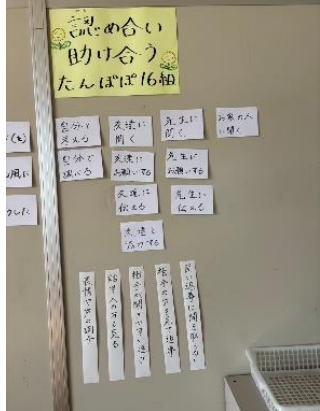
・6年生が考えてくれた「平和宣言」など、内容が低学年には難しいときに、要点のみを板書して難しい言葉の補充をしたり、矢印等で図示したりする。

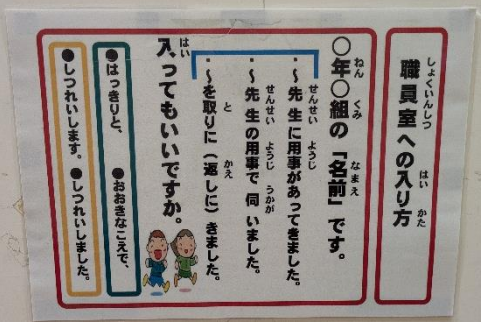
## 【成果】


オンラインの開催ではあっても、学級の実態に応じて、言葉や内容の補完をしたり、分かりやすく図示したりすることで、低学年であっても、集中を切らすことなく、内容を理解しながら参加することができる。

実践例44	活動内容や手順の視覚化による見通し支援	小学校
<p>【目的】 授業や日常の活動において、次に何をすればよいのかが一目で分かるようにし、指示の聞き取りが苦手な児童や見通しを持ちにくい児童への支援を行う。</p> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「昼休みまでにやること」や「給食後にすること」など、活動内容や手順をホワイトボードやマグネットで明示的に掲示する。</li> <li>・必要な工程や時間の流れを目に見える形で示すことで、子どもたち自身が自分の行動を整理しやすくなるよう工夫した。</li> <li>・「問いQ」「Point」「Spy Time」など興味を引くビジュアルやワードも取り入れ、児童が主体的に動けるよう促した。</li> <li>・活動によっては「1人でタイム」「友達タイム」など、段階を踏んで学びを深められるように設定。</li> </ul>		
<p>【成果】 教員の口頭指示を待たずに、児童が自分でやるべきことを確認して動けるようになってくる。 特に注意の切り替えが苦手な児童にとって、行動の見通しが立てやすくなり、落ち着いて活動に取り組める時間が増加する。 集団活動でも全体の流れがスムーズになり、クラス全体の自立性が高まってくる。</p>		

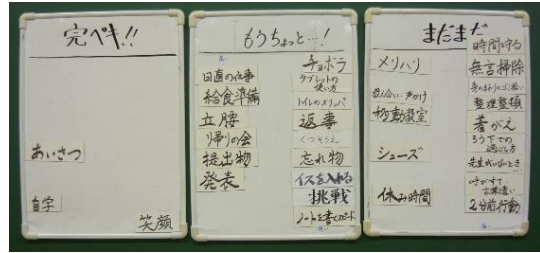
実践例45	席を離れるときのリマインド	小学校
	<p>【目的】 児童が席を離れるときはいすを入れることを意識し、忘れずに椅子を入れるようにする。</p> <p>【解説】 アイスのイラストから「あいす」→「あ、いす」→「あ、いすをいれないとあぶないよ。いすをいれてね。」ということを連想させ定着させることをねらいとする。</p>	
<p>【成果】 必要に応じて提示することで忘れずに椅子を入れることができる。</p>		

<p>実践例46</p>	<p>困ったときのカード <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span></p>
	<p><b>【目的】</b> 自分で困ったときにどう対処したらいいのかの選択肢を知っておく。</p> <p><b>【解説】</b> 自分が困ったときにみんなでどういう方法があるのかを話し合い、決定した意見を教室の後方に掲示しておくことでいつでも見直すことができるようにする。</p>
<p><b>【成果】</b> 自分たちで考えた手段を貼っていることで、見直している様子や困ったときに意識して行動する様子が見られる。</p>	

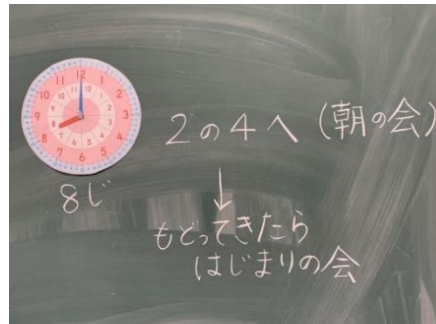
<p>実践例47</p>	<p>自分で行動できるための工夫 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span></p>
<p><b>【目的】</b> 児童が職員室に入るときのあいさつを安心して正しく行えるようにする。</p> <p><b>【解説】</b> 職員室のドアに入ることを明記したプリントを貼る。プリントの中身は簡潔に書く。</p>	
<p><b>【成果】</b> 職員室に用事がある児童が、あいさつ・用件を一人で言える児童が増える。</p>	

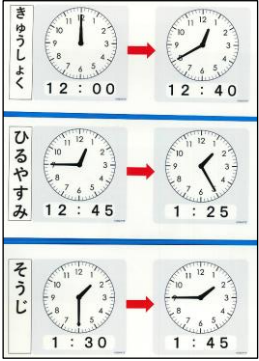
<p>実践例48</p>	<p>声の大きさものさし <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span></p>
<p><b>【目的】</b> 声の大きさを数値化することで、場に応じた声の大きさを知り、自分で調節することができる。</p> <p><b>【解説】</b> 話し合い活動や自立活動などを行う際に、事前に子どもたちと声の大きさを決めようとして活動する。</p>	
<p><b>【成果】</b> 「今の声の大きさは何だったかな？」とその都度子どもたちに聞くことで、子ども自身も「今は、3だ。」と、自分の声の大きさに気づくことができるようになる。また、自分たちで声の大きさを決めることで、守ろうとする意識が高まってくる。</p>	


実践例49	生活チェックボードによる可視化と共有	小学校
<p><b>【目的】</b> 生活のよさや課題を視覚的に共有し、全員が自分の立ち位置を把握できるようにすることで、自己理解と集団への意識を高める。</p> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週1回、「日々の生活チェック」として、子どもたちの生活場面での様子を「完ぺき」「もうちょっと」「まだまだ」の3段階で分類してホワイトボードに掲示する。</li> <li>提示は教室背面に常設し、誰でもすぐに確認できるようにしている。</li> <li>あいさつや係活動、返事や提出物など、日常の具体的な行動を振り返ることで、自分たちの長所や改善点を明確にし、全員で意識をそろえる機会として活用している。</li> </ul>		
<p><b>【成果】</b> 自分やクラス全体の行動を客観的に見直す視点が育ち、「この前よりよくなっている」「次はこの課題に取り組もう」など、前向きな発言が増える。 掲示を見ながら行動を振り返る習慣が定着し、見通しをもって生活できる児童が増加してくる。特に、視覚的な情報の方が入りやすい児童にとって有効な支援となる。</p>		




実践例50	時計をみて動こう	小学校
<p><b>【目的】</b> 時計のイラストを使い自分たちがそのときにどんな活動をするのかを意識できるようにする。始まりや終わりが分かることで安心して活動することができるようにする。</p> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時計の下にその時間を書くことで時計の学習へもつなげる。</li> <li>教室の時計と見比べて、活動をすることができるようにする。</li> <li>毎授業2つの時計のイラストを掲示し、始まりと終わりが分かるようにしておき、安心して学習できるようにする。</li> <li>時計を掲示し、時間を守って活動することの大切さを感じることができるようにする。</li> </ul>		
<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あ、8時になった！2-4に行ってきます」と自分から動こうとする姿が見られるようになる。</li> <li>切り替えが苦手な児童が時計を掲示して声かけを行うことで、終わりが分かり、スムーズに切り替えできるようになる。</li> <li>時間を守ることで、楽しい時間が増えるということを意識しだし、集中できる時間が長くなる。</li> </ul>		





実践例5 1	時計画像の校時表（低学年）	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時計の画像を見て、児童が時間を確認して自ら行動できるように促す。</li> <li>定刻に始めることを意識させ、終わりの時刻までの見通しをもたせる。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校時表に合わせて、始まりと終わりの時刻を時計の画像で示す。</li> <li>ラミネートをかけた画像を黒板に掲示する（日直が張り替える）。</li> <li>始まりの時刻近くになったら、気付いた人が声掛けなどを行う。</li> <li>始まりと終わりの時刻になったら、日直が号令をかける。</li> </ul>		
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画像があることで、時刻が読めない児童でも分かる。</li> <li>日直の仕事として掲示したり気付いた人が声掛けしたりすることで、時間・時刻やそれらを守ろうとする意識が育つ。</li> </ul>		


実践例5 2	日常英語活動による安心して参加できる教室づくり	小学校
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>難聴児が音声だけに頼らず、視覚情報を補いながら英語表現に親しませる。</li> <li>毎日行う活動を通して、日付や曜日などの理解を深め、交流学級での学習につなげる。</li> </ul> <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語表現を毎日同じ流れで行うことで、難聴児が内容を予測しやすくなるようにしている。このルーティンの最後に「How are you?」を取り入れることで、児童のその日の気分を把握しやすくなり、その後の学習や会話にもつなげやすくなっている。</li> <li>視覚的な提示を併用することで、聞き取りにくさを補い、いつも共有できる環境づくりを意識している。交流学級では英語の時間が特定の曜日に限られることが多いため、日常英語活動を行うことで、他の曜日についても繰り返し確認できるようにしている。読み方一覧表を常時提示することで、聞き取りにくさを感じた際にも自分で確認できる環境を整えている。</li> <li>一定の流れを毎日繰り返すことで、内容の予測がしやすくなり、安心感につながっている。</li> </ul>		 <p style="text-align: center;">一覧表</p>


<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難聴児が曜日や日付などの理解を深めることができる。</li> <li>・交流学級の活動にも、少しずつ自信をもって参加する様子が見られるようになる。</li> <li>・最後の「How are you?」で、体調や気分の把握も流れの中で知ることができ、その後の会話や活動につなげることができる。</li> </ul>
--

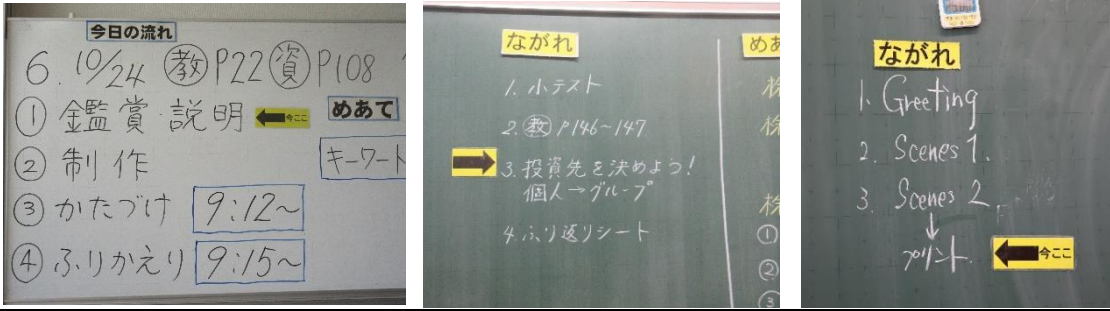
実践例53	英単語の掲示 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
	<p><b>【目的】</b> 多くの児童に英単語に興味をもったり覚えたりしてもらうため。</p> <p><b>【解説】</b> 英単語だけでなく、絵や読み方を載せることで下学年でも意味を理解しやすくしている。</p>
<p><b>【成果】</b> 毎日通る階段に掲示することで興味をもつ児童が増える。</p>	


実践例54	ほっと安心！案内表示 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校</span>
<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の施設の場所や位置関係に不慣れな低学年児童や来校者が目指す場所がどの方向にあるのかを把握しやすいようにする。</li> </ul> <p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校舎の一部改修に伴い、仮設校舎が建てられています。本校舎と仮設校舎との間には、長い迷路のような渡り廊下があります。廊下の両側の壁に当たる部分も高く、遠方が見えにくい状態です。</li> <li>・通路の曲がり角や分かれ道になっている箇所には「案内表示」があると安心します。</li> <li>・「案内表示」の文字は大きく太く書かれていて、遠くからでもよく見えます。</li> <li>・矢印も赤色で太く示されていて、これも遠くからよく見えます。</li> </ul>	
	
<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内表示があるので、低学年児童に限らず、中学年以上の児童や保護者などの来校者も目的地により早く着くことができる。</li> </ul>	


実践例55	授業に集中できる環境づくり	中学校
<p>【目的】 視覚からの刺激を少なくすることで、授業に集中できる環境をつくるため。</p> <p>【解説】 教室前面の壁面には掲示物をしない。</p>		
<p>【成果】 他のところに注目することが少なくなる。</p>		


実践例56	授業に集中できる環境づくり	中学校
<p>【目的】 物音が気になる生徒への刺激を減らし、集中して学習ができるようにするため</p> <p>【解説】 椅子の脚にテニスボールをつけて、音が出ないようにしている。</p>		
<p>【成果】 静かに学習に取り組むことができる。</p>		

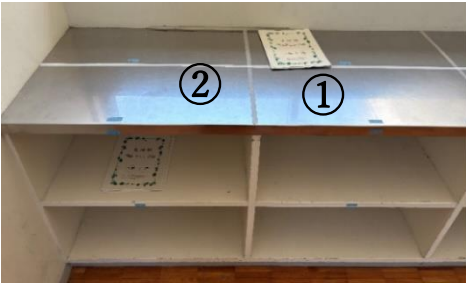
実践例57	1時間の授業の流れカード	中学校
<p>【目的】 1時間の授業の流れが分かり、展開が見通せる。</p> <p>【解説】 各教室にめあて・授業の流れ・まとめ・振り返りの共通のカードがあり、このカードを使って、1時間の授業の展開が視覚化できる。</p>		
<p>【成果】 どの教室にも共通して同じカードがあり、各教科、道徳でも授業展開の視覚化で利用されている。毎時間大きく変わることはないの、生徒にとっては、わかりやすいと思われる。</p>		

実践例58	見通しがもてる学習の流れ	中学校
<p>【目的】 どの学年、どの教科でも同じように学習の流れを提示することで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>【解説】 今学習しているところがわかるように、矢印で提示する。</p> 		
<p>【成果】 全学年、全教科で取り組むことで、1時間の授業の流れが視覚的に理解でき、今何をすべき時間なのか確認することができる。</p>		

実践例59	今月の学習の見通し	中学校
<p>【目的】 1年生の学習で、毎月主にどのような学習を行うのか生徒自身、教師自身も見通しがもてるようにするため。</p> <p>【解説】 毎月の各教科の学習内容の見通しやポイントを表示することで、生徒や教師自身見通しが持てるようにする。</p> 		
<p>【成果】 毎月、掲示されることで、生徒や教師自身も学習内容の見通しが持てる。また、毎月の日本ならではの行事もイラストや、文字で、表現できるので、日本文化の継承にもつながってくる。</p>		

実践例60	トイレの入り口、スリッパ並べ	中学校
<p>【目的】 トイレを一度にたくさんの人が利用できるようにするため。</p> <p>【解説】 トイレ入り口の取っ手を外し、いつも開の状態にする。 (固定) スリッパもきれいに並べやすいようにカラーテープで区切っている。</p>		
<p>【成果】 人数が多い本校では、一度にたくさんの人が利用できるように、常に開の状態にしている。開け閉めがないので、指や手を挟む心配がない。また、入り口のドアの取っ手を外しているの、廊下を歩いていてぶつかる心配がない。さらに、カラーテープでスリッパを置く場所を決めているので、きれいに並べられている。</p>		

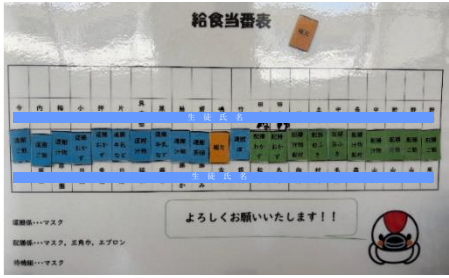
実践例61	健康診断をスムーズに	中学校
<p>【目的】 視覚的に並ぶ場所を提示することで、指示がなくても生徒が静かに並び、移動することができる。</p> <p>【解説】 診察前には検診の受け方の説明が掲示されており並びで待っている間に、各自で確認することができる。</p>		
<p>【成果】 教師の指示なく並びことができ、静かに検診を進めることができる。</p>		

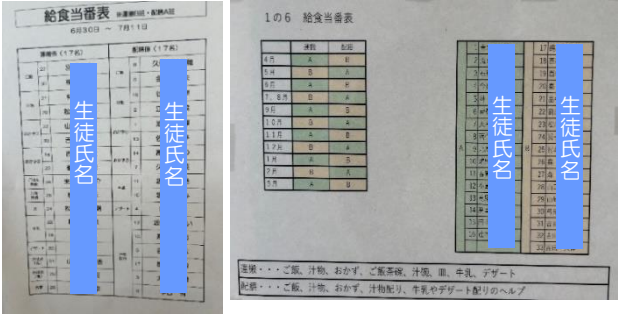
実践例62	週課題の提出と返却タイミング	中学校
<p>【目的】 週課題の提出場所を一カ所にまとめ、提出しやすく、確認する教師も一カ所に集まるので、確認しやすくするため</p> <p>【解説】 週課題提出の場所(①)や教科担当者の確認が済んだ後(②)にどこにノート類が置かれているかで、確認前か済みかが分かる。</p>		

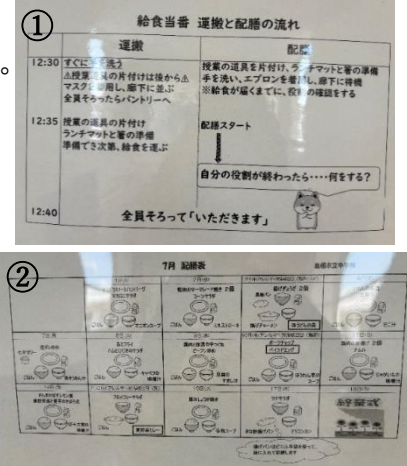
<p><b>【成果】</b></p> <p>6クラスが提出できる場所があり、クラス割りもされているので、クラスで集めた週課題が生徒自身提出しやすく、確認する教科担任も一カ所に6クラス分が集まるので、集中して確認しやすい。また、確認した後、(2)の場所に教科担当者が置くので、生徒自身、クラスに持ち帰り返却しやすい。</p>
---

実践例63	給食準備・配膳台	中学校
<p><b>【目的】</b></p> <p>配膳台に給食の食缶等を置き、配膳しやすくするため。</p>		
<p><b>【解説】</b></p> <p>汁缶、おかず、ごはんなどを配膳台において、つぎ分けやすく、また運搬しやすくしている。</p>		
<p><b>【成果】</b></p> <p>配膳台のシールに合わせて、汁缶やごはん、おかずを置き、つぎ分けやすくまた運搬しやすくなる。</p>		

実践例64	居心地のよい学級に	中学校
<p><b>【目的】</b></p> <p>生徒の望ましい言動が増えみんなが居心地のよい教室にするため</p>		
<p><b>【解説】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の望ましい言動を認め、コメントを記入する。</li> <li>生徒同士でうれしかった言動についても、記入させる。</li> </ul>		
<p><b>【成果】</b></p> <p>相手のことを考えて行動する場面が多く見られるようになる。</p>		

実践例65	給食当番表	中学校
<p>【目的】 給食当番のメンバーと担当の仕事がわかるようにするため。</p> <p>【解説】 仕事内容を書いた磁石を一つ一つ作り、だれが何の仕事をするか、また次回は何の仕事をするか、はっきりさせている。</p> <p>【成果】 役割が明確で、生徒自身この表を見て行動できている。</p>		

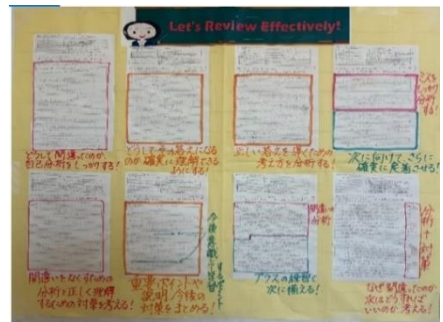
実践例66	給食当番表	中学校
<p>【目的】 給食当番のメンバーや仕事が見ても分かる工夫。</p> <p>【解説】 学級担任によって、給食当番表の作りは違うが、共通して、学級の生徒1人一役を与え、誰が見ても誰と同じグループか、どのような仕事をするのか明確である。</p> <p>【成果】 学級担任によって、給食当番表の作成は異なるが、一人一役で担当する仕事が見覚的に分かる。また、誰と一緒に活動するのも分かるような作りになっている。</p>		

実践例67	給食当番と準備の仕方	中学校
<p>【目的】 給食準備の仕方や配膳の仕方がわかるようにするため。</p> <p>【解説】 ・給食準備の流れを、時系列で表示(①)。 ・配膳の仕方とメニューが一目で分かる(②)のようにイラストで表示されている。</p> <p>【成果】 廊下の窓、配膳する場所の近くにこれらを掲示しているため、給食の準備が生徒自身、教師自身もしやすくなっている。</p>		

実践例68	手洗い・洗面所の衛生	中学校
<p>【目的】 視覚的に、正しい手洗いの仕方や歯磨き後の手洗い場の衛生を保つ方法を伝えるため。</p> <p>【解説】 手洗いの正しい仕方をイラストと文字で表しているため、誰が見てもわかりやすい。</p>		
<p>【成果】 手洗い場の生徒の目の高さに、この手洗いの正しい仕方を掲示しているため、正しく手洗いができている。</p>		



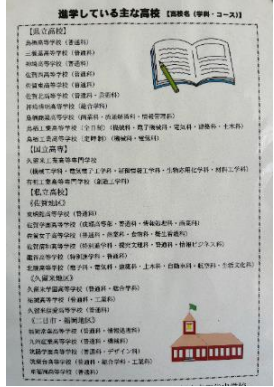
実践例69	英語の単元・テストの振り返り	中学校
<p>【目的】 英語の学習の力を高めるために。</p> <p>【解説】 学習単元の振り返りとテストの振り返りを行い、参考になる生徒のものにコメントをつけ掲示し、今後の学習に取り入れてもらうため。</p>		
<p>【成果】 生徒自身が、自分の学習法の見直しにもなり、参考とする手立てにもなる。</p>		



実践例70	中学校の年間行事の掲示	中学校
<p>【目的】 1年生の生徒が、中学校の年間行事の見通しが持てるようになるため。</p> <p>【解説】 1年生の入学から3月までの1年間のおもな行事がいつ行われるのか見通しが持てる。</p>		
<p>【成果】 大きく拡大しての掲示なので、中学校入学からの1年間に、いつ・どのような行事が行われるのか、把握しやすい。</p>		



<p>実践例 7 1</p>	<p>高校進学先の名称と場所</p>	<p>中学校</p>
<p><b>【目的】</b> 本校から通える高等学校の名称と場所が視覚的に分かるように。</p> <p><b>【解説】</b> 中学 2 年生の廊下に、次年度を見据えて、過去の先輩達が進学した主な高等学校の名称とどこにあるのか本校を中心に私立と県立、国立、公立などに色分けして表示している。</p>		
<p><b>【成果】</b> 色分けして地図上に表示しているので、どの高校が私立、県立、公立、国立かわかりやすい。 また、2 年生の廊下に掲示されているので、早い段階で、高校進学に向けての意識を持たせることができる。</p>		





**鳥栖市の小・中学校における  
「教育のユニバーサルデザイン化」等の事例集**

作成 令和4年3月（初版）

令和8年3月（改訂）

鳥栖市教育委員会 学校教育課

教育指導係・インクルーシブ教育推進係

〒841-8511 鳥栖市宿町 1118 番地 1

TEL 0942-85-3520

FAX 0942-83-0042

E-mail [gakko@city.tosu.lg.jp](mailto:gakko@city.tosu.lg.jp)

URL <http://www.city.tosu.lg.jp>